

情報共有

(3枚)

非管理メモ

NISA班 ← プラス対応

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

東京電力株式会社

1/8 16:20 広報班

取扱注意 公開不可

暫定版

日時：平成 23 年 10 月 9 (日) 11:00~11:40

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者 13 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 9 日 6:00 現在)

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 昨日の窒素封入作業直後に比べて、本日の格納容器スプレイ系配管内の水素濃度が下がったのはなぜか。

A. 確定的な事は言えないが、46A は昨日窒素封入直後は 0.1% であり、静定後 0.4% が本日 2.3% になった。84A は昨日窒素封入直後は 0% であり、静定後 3.9% が本日 2.9% に下がった。昨日の午後は 46A と 84A で差があったが、今朝は近い値に落ち着いた。この値については本日の窒素パージ後の値もふまえて評価してまいりたい。

Q. 46A の 2.3% と 84A の 2.9% のどちらの値が信頼できると評価しているのか。

A. 各々の場所で測定しているので、数値の信頼性に優劣は無いと思っている。

Q. 昨日の 3.9% という値は通常時より高く、2.3% や 2.9% の値を信頼するという事か。

A. 配管内の空気が混ざりあって、昨日高かった 84A の値が下がり、昨日低かった 46A の値が上がったと思われる。それ以上の評価は今後行う予定。

Q. 本日計測した値というのは、窒素パージ作業直前の数値か。

A. その通り。

Q. 今後、配管切断までの作業の見通しは。

A. 窒素をパージし、静定して計測し、4 時間を経過しても水素濃度が 4% 未満になると評価すれば配管切断作業をする予定だが、具体的な日時については詳細は決まっていない。

Q. 今日中に切断まで行う予定か。

A. まずは配管内の水素濃度を測定し判断する。

Q. 今後窒素を封入した後、水素濃度測定の時間的な見通しは。

A. 窒素封入後、直後の水素濃度を測り、その後 30 分程度静定して再度計測する予定。

Q. 配管切断は水素濃度が低い事が前提ということだが、具体的な基準はあるのか。

A. 水素濃度の傾向を見極めて判断する。

Q. 配管の切断を決定する濃度は何%か。

A. 具体的な濃度は決まっていないが、水素濃度が1%未満であることを確認し、30分後、再度濃度測定を行って水素濃度の上昇傾向を把握する。この時点で、配管切断に必要な4時間を経過しても水素濃度が4%未満となることが確認できれば、切断が可能と考える。

Q. 30分において水素濃度を再度測定するという事だが、30分間の数値の変化から4時間後の濃度上昇率を評価するという事か。

A. その通り。

Q. 配管切断時も窒素パージを継続するのであれば、水素濃度はある程度抑えられるかと思うが、保守的に評価しているのか。

A. その通り。

Q. 30分で何%以内の濃度上昇であれば4時間後も問題無いと考えているのか。

A. 何%であれば良いとは一概には言えない。窒素パージ直後の濃度と上昇の傾向から判断する。

Q. 窒素パージをして30分後に再度水素濃度を測定して上昇傾向を見るとのことだが、4時間後にも再度確認するということか。もしくは、窒素パージ後30分の時点で濃度の上昇に特段問題がなければすぐに配管切断作業を始めるのか。

A. 上昇傾向が緩ければ配管切断作業に進むかもしれないが、4時間後に4%未満になるとの評価でも、パージ後30分後の上昇傾向が高ければすぐに切断作業に取りかからないかもしれない。一概には言えない。

Q. 本日、水素濃度を測定した時間は。

A. 確認させていただく。

Q. 窒素パージ後の水素濃度測定は4時間経過後に測定するのではなく、窒素パージ後、30分後に実施し、必要に応じてその後も上昇傾向を見ることもあるということか。

A. その通りである。

Q. 条件が整えば本日13時頃にでも配管切断作業を始める可能性はあるのか。

A. まずは窒素パージ後の水素濃度次第である。一律4時間待つというわけではないが、濃度が低かった場合でもすぐに配管切断の実施の判断が出来るかどうかはわからない。

Q. 窒素パージ後、30分後に静定時の測定をするのか。もしくは30分以上置いてから実施するのか。

A. 具体的に何時に測定したかは実績をとりまとめさせていただくが、基本的には窒素パージ後30分以上経過してから再度水素濃度を測定・評価する。

Q. 今後、水素の発生由来等の状況把握をすることは考えているのか。

A. 水素濃度の把握については、以前、原子力安全・保安院からも関連する作業に当たったの指導をいただいている。格納容器につながっている配管としては、可燃性ガス濃度系等がある。具体的に発生由来を特定するための作業予定が現時点で定まっているというわけではないが、2、3号機においても格納容器ガス処理システムの設置にあたり、2、3号機において配管内の水素濃度を準備が整い次第測定していく予定。

Q. RO漏えい作業に伴う内部被ばくの可能性のあった作業員のその後の状況について教えていただきたい。

A. 福島第二原子力発電所のビクターズホールでのカウント数は口周りで 1,200CPM、頸部で 1,900CPM、左腰部で 8,000CPM で、放射線管理手帳への記録レベル以下であることを確認している。

Q. 昨日の原子力安全・保安院での会見では2%未満の場合配管接続作業をするとのことだったが、本日の会見では4%としている理由はなぜか。

A. 実際に配管の切断作業をストップする基準として2%以下程度を考えているということ。また、配管切断中は窒素を注入しながら行う予定。

以 上

NISA班 - アレス対応チーム

阿部 関河

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

10/10 16:10 石原

日時：平成 23 年 10 月 9 日 (日) 18:00~18:40

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第百九十八報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について (第百九十一報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (10 月 8 日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (10 月 9 日)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 9 日 12:00 現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 窒素のパーシについて、46A と 84A の 2 箇所とも水素濃度が 1% 未満であった事の他に、今回配管の切断を決定した理由はあるのか。

A. まず、水素濃度が 1% 未満であることを確認した。パーシ停止し、30 分以上経過した後再度濃度測定を行い、水素濃度の上昇傾向を把握した。その時点で、配管切断に必要な時間である 4 時間を経過しても水素濃度が 4% 未満となる事が確認できたため、17 時 7 分に配管の切断作業を開始した。また、切断中もパーシを継続する事で水素濃度を低く抑えている。

Q. 切断する機械は火花が飛ばない仕様になっている事だが、詳細を教えてください。

A. ホールドカッティングという溶接面を機械加工するようなものを使って切断する。バイトで一層ずつ薄皮をむくタイプの汎用の機械である。

Q. 切断中も窒素封入するということだが、その封入は今まで封入してきたラインと同じラインか。

A. その通り。

Q. 今回の作業により高濃度の水素の滞留は解消され、爆発の危険性は無くなったのか。

A. 格納容器から近いバルブと MO12 弁は閉まっており、外界とは遮断されている上、切断部分を養生する事によって空気が入らないようにしており、酸素濃度が上がらな

いため、現時点において水素爆発の可能性は無いと考えている。

Q. 昨日被ばくした作業員について、免震重要棟でサーベイしているのにも関わらず、その場で被ばくが発見されなかったのはなぜか。

A. 福島第一原子力発電所はバックグラウンド線量が高く、検出しにくかったのかと思われる。念のためWBCを受け、内部被ばくが無かったことを確認した。

Q. 配管切断の具体的なスケジュールを教えてください。

A. 現在のところ、具体的な工程は未定。ただし、先月の20日の道筋ではステップ2の期間内、もしくはそれ以降という幅広い期間を設けている。今後、詳細が決まり次第公表させていただく。

Q. 格納容器ガス管理システムの稼働時期について、目標はないのか。

A. 1～3号機において平行して作業を進めているが、年内の完成を目指したい。

Q. 1%以下であることが第一条件との説明だが、15時15分の数値はいずれも1%を超えている。どういうことか。

A. 窒素をパージしている状況および直後で水素濃度が1%以下であることをまず確認する。今回の場合、84A弁で13時39分に0.5%を、46A弁で0.9%を確認したのがそれにあたる。その後、静定させてから再測定し、4時間後に4%以下となることが想定できたことから切断を判断したもの。

Q. 切断が無事終わった際にはご連絡をいただけるのか。

A. ご連絡する。

Q. 切断後、どのような作業となるのか。

A. 切断後の配管開口部には閉止板を設ける。

Q. 17時以降の切断作業だが、作業を急いだのか。

A. 昨日から作業をしてきているものであり、特段急いでいる訳ではない。

Q. 当初配管内に存在した水素の由来は何と考えているのか。

A. 当該配管は水封されていたが、格納容器ガス管理システムの設置作業に伴い配管内の水抜きをした際に、事故当時高濃度だった水素が当該配管内に入り込んだのではないかと考えている。

Q. 水抜きを実施したのはいつか。水抜きをして、すぐに水素を測定したのか。

A. 9月21日に12弁を解放して水抜きをした。22日に10,000ppmまで測定できる可燃性ガス濃度計で水素濃度を測定した。

Q. 水素は格納容器から出てきたのか。

A. 格納容器の中の水素がスパジャーの配管に初期段階で入り込んでいた可能性がある。

Q. 他部位の類似配管にも水素が溜まっているのではないか。
A. 他の部位の水素濃度についても注意を払ってまいりたい。

Q. 先日お亡くなりになった方の死因はわかったのか。
A. 死因については差し控えさせていただきたい。なお、被爆線量は低いレベルであり
また、作業状況も1日数時間の作業であり過酷な作業状況ではなかった。

Q. 元請け企業はどちらか。
A. 大成建設。

Q. 作業員の方が亡くなった件は警察連絡しているのか。連絡している場合、
事故として連絡しているのか。
A. 事故という扱いではない。

Q. 原子力安全・保安院には死因について連絡をしているのか。
A. 行っている。

Q. 死因は病気に関わるのが原因だったのか。
A. 労働環境に起因するということであればそれなりに調査することになる。今回はそ
のような状況ではないということ。

以上